

## 平成29年度第70期生卒業式（平成30年3月1日）

春一番が吹きましたが天候にも恵まれたなか、70期生の門出をお祝いする卒業証書授与式を行いました。多くのご来賓、保護者の皆様、教職員、在校生の出席のもと、第70期生275名のたびだちをお祝いしました。

### 卒業式 式辞

例年より、寒さの厳しかった本格的な冬も終わりを迎え、春の訪れを感じる今日この頃です。時代の移り変わりや社会の変化があっても、自然の営みには変わることはありません。今年も希望に満ちあふれた春がめぐってきました。

この早春の佳き日に、大阪府立清水谷高等学校第70回卒業証書授与式を挙行いたしましたところ、公私ご多用中にもかかわらず、多数のご来賓のご臨席を賜り、卒業生の前途を祝福していただきますことに対しまして、厚くお礼申し上げます。また、皆様方には平素より本校の教育活動に深いご理解と様々なご支援をいただいておりますことに、この場をお借りして、重ねてお礼申し上げます。

保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、本当におめでとうございます。三年前、春爛漫の桜の花とともに本校に入学されたお子様方は、実に頼もしい若者に成長され、力強く新しい社会へと踏み出される日を迎えられました。高校時代は心身ともに、実に大きく成長する時期であります。ある時は遅く、ある時には不安定に見える毎日に、はらはらされることもあったのではないのでしょうか。日ごろのご労苦ご訓育が今ここに実り、この日を迎えられましたことに重ねてお祝いを申し上げます。

70期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

ただ今、卒業証書を授与いたしました275名の皆さんひとり一人の記憶の中には、清水谷で過ごした多くの出来事がよみがえっていることでしょうか。希望と不安の入り交じった入学式から三年間、皆さんは果敢に学業や部活動あるいは行事に取り組んできたことと思います。友と語りあい、汗を流し、涙し、時にはトラブルに巻き込まれながらも力を合わせて、かけがえのない青春を自らの手で作りあげてきたことでしょうか。そして生涯続く友情を培った生徒も多いと思います。力を出し切ってやり遂げた体育祭、心から楽しんだ文化祭、早朝講習や清水谷セミナーで勉学に励んだこと、ホームルーム合宿において自然に囲まれた体験や民泊をとおして地元の方とふれあったこと。入学式から今日の卒業式までの3年間のうち、私は2年間君たちとともに過ごすことができました。その間に、皆さんの姿に元気づけられ、勇気や希望をたくさんいただいたような気がしています。

さて、皆さんが旅立とうとしている世界と時代は、かつてない混乱期、激動期を迎えています。

このような、厳しい時に出発つ（たびだつ）皆さんだからこそ「志（こころざし）」をしっかりと持って欲しいと思っています。

どんな困難な状況に直面しても、自分の力を信じ、あきらめずに困難に立ち向かっていく強い気持ち、未来を大きく開くのだということ、高い「志」を持ち、自分で自分の限界を決めず、常に向上心をもって、自らの潜在能力を高め、あきらめずに挑戦することが「夢」の実現を可能にするということを忘れないでください。

自分が思う体力・精神力の限界は、本当の限界ではありません。本当の限界は自分が思っているよりももっと先にあると信じ、高い「志」を持ち、常に向上心をもって、自らの潜在能力を高め、あきらめずに挑戦することが「夢」の実現を可能にするということを忘れないでください。

今年度、話題になった書籍の一つに、児童文学者の吉野源三郎さんが書かれた「君たちはどう生きるか」があります。この本は、1937年（昭和12年）に初版が発行されて以来80年が経過するにもかかわらず現在でも読まれているのはなぜなんだという思いから、私も読んでみました。この時代は、日中戦争が泥沼化していき、ヨーロッパではヒトラーやムッソリーニが登場し、間もなく第二次世界大戦がはじまろうとしています。そんな中、世の中の生きる意味について次第に自ら考え始めた主人公のコペル君を、叔父さんのアドバイスにより導いていくという内容です。

上級生から目をつけられている北見君が殴られるときにはみんなで殴られようと、約束していたコペル君は一人だけ約束を破ってしまいました。友だちを裏切ってしまったコペル君は、学校に行けなくなるほど強い自責の念に駆られます。そんな彼に叔父さんは「悲しみや苦しみの意味」を教えました。

「自分が取り返しのつかない過ちを犯してしまった、と感じているのは、正しい道に向かおうとしているからなんだ」

「僕たちは、自分で自分を決定する力を持っている。だから誤りを犯すことがある。しかし、僕たちは、自分で自分を決定する力を持っている。だから、誤りから立ち直ることができるのだ。」

これからの人生において、心に苦痛を感じたら、それは自分が正しい道を進もうとしているサインであり、「どうすればあるべき姿に戻れるのか？」「自分はどう生きるか？」という質問に向かい合うことで、人間的な成長を積み重ねていってください。

これまで皆さんは本校において、日々の授業を通じてコツコツと努力をすることにより、一つひとつの小さな成功体験を数多く積み重ねきました。今後は、そのことに満足することなく、新たな学びや体験を自ら求め、その中からそれぞれの長所を改めて見出し、人生の目標に向かって日々努力を重ねてください。

清水谷高校を卒業するにあたり、この3年間、培ってきた知識と能力と感性で、さらに大きな夢やあこがれを描くことで、自分の将来進むべき道を切り開き、社会に貢献す

る力を備えた大人へと成長されることを心から願っています。

皆さんの前途に幸多かれと心から祈り、式辞とします。

平成30年3月1日

大阪府立清水谷高等学校 校長 橋本 卓爾